

令和6年度第2回瑞浪市図書館協議会 会議録

■日 時：令和7年2月21日（金） 14時00分～15時35分

■場 所：市民図書館 1階 研修室

■出席者（名簿順・敬称略）

《委 員》井上 典子、岩島 留美子、安藤 徳善、松浦 大哲、永江 美年子、杉山 洋、岩下 みゆき、※岩島 哲也（欠席）

《事務局》指定管理者（特定非営利活動法人こまどり会）：安藤 昇（瑞浪市図書館館長）、
今井ほのか（図書館司書）

生涯学習課：加藤 百合子（次長兼課長）、西田 寿恵（課長補佐）、細田 達也（主事）

■内容

1 開会

（会長あいさつ）

2 議題

（1）令和7年度図書館事業計画について

〈事務局より、資料に基づき説明〉

委 員：各イベントの参加対象者は大人か子どもか。どのように伝えているのか。

事務局：イベントにより対象者は異なるので、広報や図書館だより等でその都度、知らせている。

委 員：様々なイベントがあり大変魅力的である。時間があるときに見させていただきたい。しかし、広報等で情報を見た時点で既に定員に達してしまい参加できないこともあった。

事務局：金戸等の分室でもイベントを行っているので、そちらも気にしてもらいたい。

委 員：イベントのPRチラシはどこにあるか。

事務局：図書館や各公民館に配架している。大きなイベントは市内各施設や学校にも配布している。

（2）瑞浪市民図書館資料収集方針の一部改訂について

〈事務局より、資料に基づき説明〉

委 員：（意見なし）

（3）電子図書について

〈事務局より、資料に基づき説明〉

委 員：国や県、近隣市で電子図書を導入しているが、わざわざ市で導入しなくてはならない理由は何か。県の図書館に電子図書があればよいと思う。

事務局：県は規模が大きいので、本を借りる人も多い。読みたいときに読みたい本がない場合もあるので、市民サービスの観点から市でもある方がよいと考えている。

委員：電子図書は、複数人が1つの本を借りることができるのか。またメリットはどういうところなのか。

事務局：1つの本を複数人でアクセスすることはできない。電子にするメリットは、直接借りに来る労力が減ることである。

委員：資料にある電子図書の貸し出しできる契約条件の「2年間または、52回」というのは、誰が決めたことなのか。

事務局：販売業者である。また、電子図書は紙の書籍と比べ1.5から2倍の価格であり、導入には大変な経費が掛かる。

委員：駅北に移転する際、新しい図書館では導入するのか。

事務局：検討はすると考えられる。しかし、現状ですぐに電子図書の導入はしない。多治見市でも同様の回答がされている。

委員：電子図書とは関係ないが、図書館の自習室を借りるために必要なものは何か。

事務局：図書カードだけである。自習室は指定席になっているので、カウンターで図書カードを提示し、席番のカードを受け取った後に席についてもらっている。

委員：以前、中学生が図書カードと学生証を持って行ったが、生年月日が登録されていないので、保険証の提示を求められたと聞いた。なぜ学生証だけではなく、保険証まで必要なのか。中学生にもなれば自身の住所ぐらいはわかるはずであると思う。過去にそこまで厳密に確認しなくてはならない程のトラブルがあったのか。

事務局：手続きとしては、最初に申請した段階で、住所等の記載がなくても仮の図書カードを付与している。ただ、案内等を送る際に住所が未記入もしくは誤った住所が記載されていると本人に届かないため、その確認として、本人確認書類を提示してもらっている。普段の業務の中で、自身の住所がわからない中高生を見ている。そのため、登録が完了する前の段階に限り保険証を提示してもらおうが、登録が済んだ後は、図書カードのみの提示でよいとしている。

3 その他

(1) 各委員の活動について

委員：現在、図書館にて本校の写真部が写真の展示でお世話になっている。今後もよろしくお願ひしたい。学校にも電子図書の話があるが、予算の関係で全く進んでいない。学生の読書離れが話題となっているが、高校図書館ではあまりそういったことはないと感じている。今後も市民図書館と学校が連携していければありがたいと思う。

委員：イベントをとおして、子どもたちが図書館に行く機会が増えればと思う。今年度から保護者向けにも図書を用意し、読書をしてもらう機会を作ったが、育児や仕事等が忙しく、なかなか本を読む人が増えない。色々と工夫を行い、少しでも保護者に本を読んでもらえるよう考えていきたい。その際には図書館を参考にしていきたいと思っている。

委員：学校で朝読書をしているが、学校に対して、図書館からまとめて本の貸し出しは行っているのか。

事務局：希望があれば貸し出ししている。

委員：本を読む生徒が少ないので、強制的に本を読む機会があればいいと思う。
あとコミュニティスクールの関係だが、現在、瑞浪小学校は生徒が700名に在るのに対し、日吉小学校はわずか63名であり、人口問題は日吉町の課題でもある。日吉町に住んでいる住民は2,000名程であるが、毎年70名ずつ減少してきている。なんとか子どもたちに残ってもらって、地域を担う子どもに育ってほしいと思う。

委員：駅北へ移転の話話を聞いてから、こんな図書館があれば良いなどと色々考えているが、この件を知らない市民との温度差に驚いている。もっと駅北移転の話題について、市民

に発信できる方法はないだろうかと思う。

コミュニティスクールについて、私は土岐地区を担当しているが、土岐小学校も徐々に生徒数が少なくなっている。各地区には公民館があり、地域で土台ができているが、瑞浪・土岐・明世にはその様な基盤がなく課題となっている。その状態で駅北に移転するという市の考えに地域性を考えているのか疑問である。地区は公民館長を中心に地域住民の頑張りがあり地域が活性化していると感じる。各地区だけではなく、瑞浪市全体で住みよい町を作れるよう考えていかななくてはならない。

電子図書については、簡単に本を借りることができるというメリットがあり、本を読みたい人にとってはいいものだと思う。

委員：電子図書については、定額図書なれば利用しやすくなるのではと思う。ペーパーレスの時代に移り変わっていくので、時間は掛かるがいずれはそうなると思う。

学校行事で英語の本の読み聞かせを行っている中で、最近、英語も良いが、正しい日本語の読み書きができていない人が多いと感じているので、日本語の本の読み聞かせを来年度以降に計画している。

あと瑞浪市 PTA 連合会で瑞浪市の登録サイトを作ろうとする計画がある。現在の市ホームページは検索性が悪く、この状態では市民への情報発信が不十分になり、かつ意見が出づらいと思う。登録サイトができれば、情報が欲しいという市民にメール等で通知がいくので、意見を集約しやすくなる等、市民の生の声が聞きやすくなるメリットがある。

委員：普段、読み聞かせのボランティアをしている。9月の鈴木のりたけ氏の講演会で案内係を務めていたが、来場者の行列ができており、本が好きな親子の多さに驚愕した。11月の瑞浪市文化祭では本の読み聞かせを行い、そこでも親子での参加が多く見られた。

また、図書館への来場者を見てみると外国人の利用者が少ないと思った。外国人にも利用してもらえることができればもっと良いなと感じた。

あと個人的な意見であるが、瑞浪の人は本当にみんな頑張っていると感じている。先程から他の委員より様々な活動を聞いているが、色々な組織があり子どもを大切に育てていくという想いが感じられる。

〈事務局より、事務連絡〉

・瑞浪駅北区複合公共施設整備運営事業者選定プロポーザル審査委員の推薦について、井上典子委員に決定。

閉会 15時35分